

## 「はむらの授業指針」策定の背景

ほぼ10年ごとに改訂される学習指導要領が、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から全面実施となりました。一方、令和元年度に始まった新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大により、学校は長期にわたる臨時休業を余儀なくされ、ICT環境を活用した学びの保障、カリキュラム・マネジメント（注）を踏まえた授業改善が求められるようになりました。



こうした中、文部科学省の諮問を受けた中央教育審議会は、令和3年1月に『令和の時代の日本型学校教育』の構築を目指して—全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現—と題する答申をまとめました。その2か月後、文部科学省は答申を踏まえた「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」（以後、「参考資料」という。）を公表しました。文部科学省は「参考資料」の内容を「今後政府の関係施策や各学校における教育の情報化の進展等の状況を踏まえ、適宜更新していく」としています。

学習指導要領の趣旨は、学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進めることにあります。その実現には、学習指導要領はもとより、中央教育審議会の答申、文部科学省の「参考資料」の内容を踏まえた授業改善が必要になります。

そこで本市では、教育委員会と校長会が力を合わせ、学習指導要領、答申、「参考資料」の内容を踏まえた授業づくりのポイントを「授業指針」としてまとめました。

（注）カリキュラム・マネジメント……教育課程に基づき、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図ること。

## 勤 勉

京セラ名誉会長、KDDI最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

誰も恵まれた人生、幸運な人生を送りたいと考えている。だが、いい人生というのは天から降ってくるものではなく、自分の心を磨くことによって得られる。だからまずは、美しい心になるように日々努力することが大切だ。

心を磨くにあたって基本になるのが「勤勉」であり、仏教ではこれを「精進」と呼ぶ。それは仕事に限らず、何か一つのことにと没頭したり、打ち込んだりすることだ。

出典：「稲盛和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ たゆまず、あせらず、おこたらず、コツコツと努力を積む「勤勉の徳」を重視したいと考えます。